

八重山の素朴さと自然保護

つい最近日本の南端、八重山諸島へ行って来た。初めての訪問だったが、何事も素朴だということは、かねがね承知していた。手のつかない澄明な自然もさることながら、島の人びとの気持ちもまさに「素朴」そのものだった。そして、その素朴さの中に意外な愛郷心としたかきを見て取った。

いま世界的に環境破壊が心配されている中で、西表島では絶滅寸前の「イリオモテ山猫」保護がすべてに優先している。街灯、交差点、舗装道路、道路の側溝等、人間の生活より野生動物を優遇している。開発は制限され、道路は拡張しないし、延伸もしない。従って、車は少なく、信号は必要ない。にも関わらず、島に信号機が 2 箇所ある。子どもたちが知らないで困るとの教育的配慮で、車のあまり通らない交差点に信号機が設置されているのだ。なんと牧歌的で微笑ましい話だろうか。

牛車で案内してくれる竹富島の観光も、御者と台車を曳く牛の阿吽の呼吸が見ていて楽しい。狭い路地内クランクを台車を傷つけないように、牛が自分から大きく舵を切るところなどは、感心してしまう。島ではTVの民放が放映されたのは、平成になった最近のことで、初めて「タモリの笑っていいとも！」を見た島の人たちは、当初「本土の人はこんな番組を見ていたのか」とびっくりしたそうである。

帰ってから作家高田宏氏から聞いた話だが、竹富島ではかつて九州のホテル資本が進出する計画があったそうだ。美味しい話だったが、ひとびとは結束して上陸させなかったという。ホテルがあれば大勢の観光客が訪れ、島の経済が潤っただろうにこの甘い話には、島は自分たちのものだ、来たいなら、石垣島から日帰り（高速船で片道約 20 分）で来れば良いと愛郷心で島の自然を守った。美しい自然と島びとの素朴さは何事にも代えがたい。

(近藤)